

第 6 章 アジア美術館の管理・運営計画

(1) 管理・運営の基本的な方針

アジア美術館の魅力向上の基本的な方針を踏まえ、拡充先における管理・運営の基本的な考え方について、下記のとおり整理します。

① アジア美術との多様な出会いを創出する

子どもから大人まで、さまざまなきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と気軽に会える場を提供します。

② アジア美術を楽しみ、知る機会を創出する

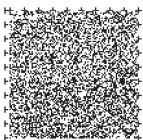
子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる学びの機会を提供します。特に、未来を担う子どもたちにとって、アジア美術をはじめ、多文化や多様性について、楽しみながら体験し、学べる場を提供します。

③ 多様な主体の活動・交流の促進

アーティストや美術関係者、ボランティアなどの多様な主体が、美術館活動に参画し、交流できる機会や場を提供することで、つながりを深め、継続的に関わりを持てる環境づくりを進めます。

④ 公園との一体化・連携

天神の中心に位置する公園と連動した開かれた施設として、にぎわいの創出と、多様な来館者が安心して過ごせる環境づくりと、地域の安全・安心に貢献する運営を促進します。



(2) 拡充先の管理・運営の具体的な考え方

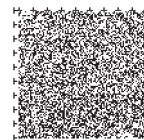
上記の基本的な考え方や、現状の運営面、警固公園の来訪傾向等を踏まえ、拡充先における管理・運営のあり方について、より具体的な考え方を整理しました。

① 開館時間・開館日

- 警固公園では、平日や朝・夕方の公園来訪者が多いため、こうした動向に合わせた開館時間や休館日の設定が重要と考えられます。
- また、外国人観光客は夜間の来訪が多く、夜間利用の需要が見込まれるため、そのニーズに応える開館時間やサービスの検討が求められます。
- 多くの人でにぎわう天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討します。

② 施設の活用の考え方

- 夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会、レセプション、企業イベント等のユニークメニューとしての利用を推進します。
- 展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図ります。
- 作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備します。
- 地上の公園と連携し、にぎわいの創出につなげます。
- 周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討します。
- イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図ります。
- にぎわい創出やユニークメニュー等での活用のあり方については、今後検討していきますが、展示される作品についての販売は行わないものとします。



③ 広報活動の充実

- SNSやウェブサイト等を活用し、展覧会や収蔵作品等の情報を積極的に発信します。
- 観光客向けに、旅マエ・旅ナカでアクセスしやすい情報発信を行い、利用促進につなげます。
- 開館前から、施設拡充の検討や工事の進捗状況等について、様々な媒体を通じて情報発信し、期待感を高め、開館後の利用促進につなげます。
- 情報発信を通じて、市民や来館者との相互コミュニケーションを活性化させ、アジア美術館への関心や愛着を高めることで、多様な主体による自主的な活動や参画を促進します。

④ デジタルの活用・DXの推進

- 最新のデジタル機器や技術の導入を進め、映像・音響・メディアアート等、多様化する近現代美術の展示ニーズに対応できる展示環境の充実を図ります。
- デジタルコンテンツ開発、デジタルアーカイブ化等を推進します。
- デジタルを活用し、国内外へアジア美術の魅力を広く伝えるとともに、遠隔での体験から来館につながる仕組みづくりを行います。
- デジタルを活用し、サービス向上と効率的な運営を図ります。

⑤ 安心安全の確保・効率的運営

- 防災性を確保し、高い危機管理能力を備えた管理体制を構築し、来館者が安全、安心に過ごせる環境を整えます。
- 市民の財産である美術品を適切に保護するため、万全なセキュリティ体制を確保します。
- 民間活力の導入や、専門家による知見を活用し、サービス向上と来館者拡大に努めます。
- 広告収入や協賛、支援者拡大等の多角的な収入確保に努めるとともに、持続可能で自立性の高い運営体制を検討します。
- 多様な主体が活動や交流に関わることができ、人々の活動の場や居場所となるような仕組みや運営体制を検討します。

